

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実を図り、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地（知）の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、意思決定等に資するIR機能の構築に向けた学長戦略室やリスクを一元的に管理し、学長の適切な判断を支援する危機管理室を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 富山県内就職率を向上させるため、平成29年度から新たに学部学生を対象とした「未来の地域リーダー塾」を開講するなどの取組を実施した結果、平成29年度卒業者の県内就職率は、前期比1.7%増加となっており、県内就職者数は過去4年間で最多の551名となっている。（ユニット「若者の地元定着による地方創生」に関する取組）
- 男女共同参画の推進するため、新たに、女子大学院生がオーガナイズする部局横断型次世代ミーティング「富大☆ハッピー・キャリア・ミーティング」を、大学コンソーシアム富山の後援により開催するとともに平成29年度から新たに、富山大学学長賞「未知に挑む女性研究者賞」を創設し、各研究分野において優れた研究成果を挙げ、将来的に国内外で当該研究分野を牽引することが期待される女性研究者2名（教員1名、大学院生1名）を表彰するほか富山県富山市の神明・五福地域包括支援センターと連携した介護支援体制を整備している。（ユニット「男女共同参画の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特筆	一定の 注目事項	順調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ グローバルSDの実施

学内グローバル環境の育成に向け、日本学生支援機構（JASSO）が実施する日本留学フェア（タイ、ベトナム、インドネシア）に国際部以外の事務系職員を3名派遣しており、日本留学を希望する外国人に対して、大学や富山県の魅力などをアピールすることにより、外国人の日本に対する考え方等に直接触れて、大学の国際化推進に資する機会を与えている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 学生支援体制の強化

平成30年度の教養教育一元化による五福キャンパスにおける一年次生の増加に対応するため、学生相談組織のコーディネーター2名の常勤化（定員化）、コーディネーター1名の勤務時間数増（週25時間→週30時間勤務）及びカウンセラー1名の勤務日数増（週2日→週3日勤務）により、学生相談体制の機能強化・充実を図るとともに、学生相談組織間での情報共有及び構成員のスキルアップのため、新たに「学生相談組織実務者研修会」を実施し、3キャンパスの全構成員14名の交流を図っている。

○ 地域再生人材育成事業の取組

地域課題の解決や地域資源の活用をビジネスの手法で考えることのできる人材の育成と、新たなビジネスモデルの創出を目指す地域再生人材育成事業として、「魚津三太郎塾」、「たなべ未来創造塾」を継続して実施するとともに、従来、高岡市との協働により実施していた「たかおか共創ビジネス研究所」を、富山県西部6市に拡大し、新たに「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」として開始しており、平成29年度までの修了生112名中73名が事業化し、事業稼働率は65.1%（平成30年3月）となっている。修了生の事業稼働率が高く地域における第二創業の促進に寄与していること、県内外へ人材育成事業のノウハウが移転されていること等から、経済産業省第7回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード2018）において優秀賞を受賞している。

○ 国際機構の新設によるグローバル化の推進に向けた組織整備

国際交流センターを改組し平成30年4月に国際機構を新設することとしており、機構内に、事業推進に関わる連携、企画業務等を実施する「グローバルフロント」、業務実施組織として国際交流センターの留学派遣支援部門と留学受入支援部門を再編した「交流部門」と「教育部門」を設置し、派遣・受入の双方を増加させるための機能強化を図っており、学内における国際関係の会議を国際機構運営会議に集約し、多様化する国際交流と学内グローバル環境整備に柔軟に対応する体制を構築している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 臨床研修医の教育内容の強化

1年次初期研修医を対象とした臨床研修オリエンテーションの講義項目に救急科での研修に必要とされる業務・手技等を新たに加えるとともに、後期研修医については、「イブニングセミナー」を他病院の初期研修医も参加可能として県内全臨床研修医に周知し、後期研修医の確保に努めた結果、後期研修医入局者数が43名となり、前中期目標期間の年平均である26名を上回った。

(診療面)

○ 心臓リハビリテーション実施によるQOLの向上

心臓リハビリテーション室を新たに設置し、循環器疾患を持つ患者への積極的な運動療法の実施等、急性期リハビリテーションの実施体制を整備し、8名の患者に対して合計64回のリハビリを実施するなど、専門的なリハビリによる早期の社会復帰を可能とし、患者の生活の質（QOL）向上につなげている。

(運営面)

○ 近隣医療機関との医療連携協定の締結

地域医療連携の強化と病院の役割分担の推進を図るため、八尾総合病院、富山西リハビリテーション病院、富山西総合病院、高岡ふしき病院との医療連携協定を締結し、患者の紹介・受入れ等のスムーズな連絡調整・緊密な連携を図った結果、患者紹介率は79.93%（対前年度比3.28%増）、逆紹介率は64.11%（対前年度比0.17%減）と、概ね高い水準を維持している。